

2025年2月23日

「百倍の実り」

ルカによる福音書 8:4-15

早川 真牧師

今朝のたとえ話では4つの違う土地が4種類の心の状態を表していましたが、私たちはこの4つのどれか一つであるというよりは、この4つ全ての土地でもあると言えるでしょう。ある時は道端のような心、ある時は石地、ある時は茨、ある時は良い土地でありましょう。神の言葉を素直に聞けるときもあれば、そうでない時もあります。神の言葉を素直に聞くことができない時、蒔かれた神の言葉の種は無駄になってしまうこともあります。しかし、一方でその種の一つでも柔らかく耕された心の中に入れば、それは百倍の実を結ぶのだと今日の個所は伝えています。

例えば礼拝の中で、その礼拝全体を理解することができなくても、またそのほとんどが理解できなかったとしても、たった一つ、神様からの語りかけを聞くことができれば、それはその人の内で百倍の実を結ぶのだと言えます。その言葉を聞かなかつたらそうは思えなかった、またそうは行動しなかった、そのような神様からの言葉が、礼拝の中のどこかから受け取られれば、その礼拝はその人にとって命をもたらすものとなります。

先週の婦人会の中である方が、ご自分の歩みを振り返る中でしみじみと、「御言葉は宝」だとおっしゃっていました。聖書においてこの御言葉とはイエス・キリストのことでもあります。もしイエス・キリストを心の内に受け入れるなら、イエス・キリストはその人の内で百倍もの実を結んでくださいます。一粒の種が100倍もの実りをもたらす時、その種はまさに宝です。私たちはこの宝を大切に守り、忍耐の後に主が与えてくださる百倍の実りを共に分かち合い喜び合って、歩んでまいりたいと思います。